

Special issue

NEWSLETTER

国際音楽資料情報協会日本支部

February 10 2015

ISSN 1347-7277

【訃報】

遠山一行初代支部長逝去

昨年 12 月 10 日、遠山一行初代支部長が逝去された。92 歳。

IAML 日本支部が設立された 1979 年 7 月より 1995 年 6 月に退任されるまで、16 年にわたって支部長を務められた。1988 年 9 月、本部の強い要請のもとで計画された東京会議開催の際には、実行委員長として陣頭指揮をとられ、アジアにおける最初の IAML 国際会議を成功に導いた。

同時代の音楽に寄り添う多彩な評論活動に加えて楽界の要職にあり、その多忙をきわめる日々のなかで、旧遠山音楽財団附属図書館（のち日本近代音楽財団日本近代音楽館）館長として音楽図書館協議会の設立にも参画、支部長在任中に同協議会理事長も兼務され、わが国の音楽図書館の育成に尽くされた。

1987 年 10 月、音楽文化の礎として早くから、その必要性に言及されていた日本の近代・現代音楽資料センター「日本近代音楽館」を創設。2010 年明治学院大学に移管し、同大学にその将来を託すまで、四半世紀にわたり、私財を投じて運営にあたられた。1998 年より日本支部名誉会員。文化功労者。

次頁に掲げた「IAML の課題」は、支部ニューズレター創刊号（1982.10）に寄稿されたものである。日本支部を設立され、その後も支部活動の進展のために、長年にわたって、あたたかなご支援をいただいた。深い感謝を捧げ、心より哀悼の意を表します。

国際音楽資料情報協会（IAML）日本支部

【創刊号 (1982.10) より転載】

IAML の課題

支部長・遠山一行

IAML は、音楽の文献に関心をもつ人々を中心とした国際的な組織である。厳密な意味の学会ではないが、そのメンバーには音楽学者や、音楽の図書館学に専門的な知識をもつ人々が多い。我が国にその支部がつくられた事情については別にかかされるとおもわれるが、日本支部成立以来わずかの期間に会員も増え、その活動も次第に活発になっているのは大いに喜ばしいことである。

音楽あるいは音楽学の発展の基礎として、音楽文献の整備が必要なことはいうまでもないが、その要求が質量両面で大いに高まったのは、我が国の音楽文化の進展の確実な証である。また日本音楽への各国の音楽家の関心も広まり、この分野での日本の貢献が求められている。IAML に与えられた課題はますます大きくなるだろう。

こうした目的を達成するために、IAML は各種の関聯団体や機関、とくに日本音楽学会および音楽図書館協議会との密接な協力が望まれるが、それは今後の課題として残されている。

更にまた、我が国の明治以来の洋楽音楽資料の組織的な蒐集・整理も、現在の緊急の課題のひとつである。これは音楽図書館協議会の来年度の重要課題としてとりあげられたが、IAML も積極的に協力してゆくべきだろう。

IAML は、あくまでも個人の自主性を重んじた組織だが、団体としての加入も認められており、そこにさまざまな問題があらわれてくることも予想される。本会が、本来の自由な雰囲気と人間的なむすびつきを守り育てながら、会員ひとりひとりの学問的向上を通じて、我が国の音楽文化に寄与するところがあれば幸いである。また、今後ますます強まるにちがいない国際的な協力への要

請にもできるだけ応えて行きたいと願っている。(1982.10)